市民活動紹介

■お問い合わせ
市民活動サポートセンター「みつば」
TEL&FAX　34-1163（宮代町役場１Ｆ）
■ホームページ　http://miyashiro.me/

しみん活動
【かわら版】

みつば祭

市民活動サポートセンター登録団体と
やりたいゾウ登録者による市民活動見本市。
町内施設の指定管理者による合同出店もあり
ます。

■会場/ **市民活動サポートセンター**　13時～16時
（会場は、一部スキップ広場になります。）

12/9（日）合同開催！

みやしろイルミネーション点灯式

手作りミニイルミを使う一味違った点灯式。
アーティストによる演奏会や地元商店の出店もあります！
（ミニイルミ制作講座についてはP16をご覧ください。）

■会場/ **スキップ広場**　16時～　（雨天中止）

参加団体

<体験>

～スポーツ～
・宮代町ミニテニスクラブ
・スポーツ吹矢協会宮代支部
・笹川ヨガサークル

～クラフト他～
・ビーズアート
・押し花
・健康チェック（医療生協みやしろ支部）
・さをり織り（ひまわりの家）
・バルーンアート（陽だまりサロン）

<展示>
・みやしろ国際交流ネットワーク

<販売>
・ぶどうの蔓の会（クラフト）
・菜の国みやしろ（野菜）
・埼玉土建建築職人協力会
・指定管理者チーム（カフェ）
・はらっぱーく＆MCA（パン・スープ）

<発表>
・宮代町太極拳連盟
・宮代民俗舞踊連盟
・ドラムサークル
・サンタルチア加藤（発声教室）
・翠檜ボランティア慰問団（腹話術）

しみん活動
【情報掲示板】

宮代町では、素敵な市民活動がたくさん行われています。これらの活動は、元気な地域社会を支えています。

11/9（金）デジカメでステキな動画を撮ってみよう！

10時～12時

子育てsalon

■日時/11月9日（金）10時～12時
■講師/小口 流　氏
■会場/宮代町社会福祉協議会　2階会議室
■参加費/500円（子育てお茶会のお茶菓子代を含む）
■持ち物/デジカメ・取扱説明書
■申込/NPO法人MCAサポートセンター
TEL：　34-1163　（市民活動サポートセンター内）
※保育ボランティアがお子様をお預かりします。
（11/7（水）までに申込）

みみカフェ×埼玉りそな宮代支店
合同企画！！　in市民活動サポートセンター

明るく終活！やってみよう
～人生の終わりに向けて
準備しておきたい事～

遺言・任意後見契約などについて、専門家がわかりやすくお話しします。
セミナーの後に、個別相談の時間も用意しています。お気軽にご参加ください。

■日時/11月15日（木）10時～12時
■講師/春日部公証人役場
公証人　長島 裕 氏
■参加費/無料（お茶菓子付）
■申込〆切/11月13日（火）まで
申込み・問合わせは市民活動サポートセンター　TEL：　34-1163
※詳しくは市民活動サポートセンターホームページをご覧ください
（http://miyashiro.me/）

宮代の偉人　島村盛助（もりすけ）

第三十四回　作品紹介（十八）『貝殻』

これまで、作家・島村苳三として盛助が発表した作品をいくつも紹介してきました。いずれも文芸雑誌などに発表され、翻訳が数冊にわたって掲載されることはありましたが、小説が連載されることはなかったかと思います。

しかしながら、実は苳三は新聞小説の作家としても作品を発表していたのです。その小説はタイトルを『貝殻』といい、明治四十四年四月二十八日金曜日から同年六月六日火曜日まで、毎日連載されたものでした。

主人公は相良柳吉、大学生で寮生活をしています。作品の冒頭は、妹の悦子が病気療養のために銚子に滞在しているところから始まります。悦子の友人が三人、見舞いのために訪ねてきます。その中の一人は藤子という名で、その後もよく悦子を訪ねてきました。たまたま来ない日は、柳吉までなんとなく物足りない心持ちを覚えるのでした。

学校の休みの期間が終わったため、銚子から東京へ戻った柳吉は、友人の誘いで歌舞伎座の芝居を見にいきます。そこで柳吉は、高子という女性と三年ぶりに再会します。高子は悦子のかつての友人で、五年前には髪をお垂げにして短い袴をはいた少女であったものが、十九となった今、すっかり女らしく、妹の悦子よりも美しい変化を遂げたと感じ、柳吉は芝居どころではなくなってしまったのでした。そして、高子との再会が偶然ではなく、何か知らぬ不思議な運命の仕業でもあるようにさえ思うのでした。

数日後、悦子を迎えに銚子へ向かった柳吉は、高子から悦子に葉書が送られ、その中に偶然柳吉と会

かわいいベイビー

川副 陸(りく)くん

平成24年2月1日生まれ

健康で心の豊かな子になってね！
大好きだよ！

赤ちゃん大募集！

このコーナーに登場してくれる赤ちゃんを募集しています

▼写真に①住所・②氏名(ふりがな)・③生年月日・④性別・⑤コメントを添えて、「広報みやしろ」までお送りください。

〒郵送　〒345・8504 宮代町役場
e-mail　voice@town.miyashiro.saitama.jp

みやしろ文芸

泥つきの葱をぶらさげ友が来た　近藤康紀

ひつじ田を黄色の帽子飛び跳ねて　橋本伊都

文化祭おかめひょっとこジィーバアーで　岡本らく

雲描く鳳凰の舞いうっとりと　戸田清美

風に透き川向かうより金木犀　原崇雄

空気澄み西富士東筑波山　板橋一風

初栗をたべる幸せ甘みます　金子まち子

鍋の湯気囲む家族の笑い声　浅倉孝郎

隣人は庭木の手入れ冬隣　村田陽宣

爽(さは)やかや農ある町のハロウィン　石塚忠次郎

空高き綿毛ような白き雲　小林成野

秋霖(しゅうりん)や音なき夜の燗(かん)の湯気　飯澤直行

畔道を朱で彩る彼岸花　保田良子

心地よくかぜ渡り行く秋の川　山野井吉之助

草繁る草取りをしてふりむけばもう生えている酉(とり)の刻過ぎた　小川千代

陽除けして冬には西日待つ勝手な家今日もナムステ我身もナムステ　鈴木いずみ

見慣れないねこが時々やって来る妙に気になる愛犬との仲　倉持祥子

千年の大国魂(おおくにたま)の社前溢るる笑みは三(み)代の寿(ことほ)ぎ　岡本信吾

残されし音色さみしき風鈴のほほに染入る秋の夕暮　良子

御住持の読経に和して教典を語意解せぬまま声あげて読む　岩下竹由

虫時雨夜の静間に鳴く音も昼は雑音の合間にほそし　島村美恵子

出荷せぬ自家用のみの山東菜一畝毎に品の変われり　金子輝男

旅間近か地図をひろげて行程をしるすも楽し夜は更けてゆく　関谷春

ふと触れる涼風赤ら顔をして残暑続きの風に混ざり来　納谷千代

新しい村の集会田んぼ中復興ビジョンニューデールとは　小山美知

明け空に流れる雲追い天気分くすることのない病院ベッドに　内田綾子

初秋とは名ばかり毎日猛暑にて里芋可哀相赤葉倒れる　戸田ふく

久々に里恋い郷に来て見れば懐かしあの家裏の家もなし　菅原やすを

天気予報ずらりと並ぶ晴れマークたまには見たし水色マーク　佐藤よしえ

たぎりたつ思いの失せて日常に埋没するは許されざるや　川嶋忠雄

肉体の極限映す金メダル掲げる笑顔いづれも清し　諸星喜代子

▼俳句、短歌の投稿は、住所・氏名・電話番号を記入し、〒345・8504 宮代町役場「広報みやしろ」まで。読み方の難しい語にはふりがなをつけてください。12月号への掲載は11月6日(火)まで。楷書での記入をお願いします。

ったことが書かれていたことを知り、「勝利」と感じます。そしてこのまま悦子と高子の仲が昔のように深くなれば、もう二度と高子を失うことのない「二重の勝利」だとも思うのでした。

一方、悦子はそういった兄・柳吉が、高子に恋をしているのではないかと推測します。そして、時々訪ねていく従兄の矢代に、その経緯を説明します。矢代は、「相良君はある人を恋するのではなく、恋の相手を探すというようなことをしている。」と指摘します。

悦子は、柳吉の恋の相手が、高子ではなく藤子であったならと思います。天真爛漫で無邪気な藤子と違い、高子には浮薄な印象があったからです。

悦子の心配は、現実のものとなります。高子に何度か手紙を送った柳吉は、その返信に一喜一憂します。再び偶然に高子に出会ったり、悦子を寄宿舎に訪ねた際に高子も同席し、柳吉を見送る際の思わせぶりな態度に、柳吉はもう高子が自分を恋人だと思っているものと確信し、高子に自分の下宿を訪ねてくれるように伝え、高子もそれを受け入れました。しかし、約束の日に高子は現れなかったのでした。弄ばれたと感じた柳吉は、何度も高子に手紙を送りますが、もう二度と高子からの返信はなかったのでした。思い悩む柳吉は、結果として自分が恋をしていたのではなく、恋の型（シチュエーション）を動いてみただけではなかったのかと思うのでした。

この話の中にはほんの数行ですが、中盤にヤドカリが、そして最後に蝸牛(かたつむり)が出てきます。ヤドカリは自身の成長に合う貝を探して寄生しますが、蝸牛は自身の成長に合わせて貝の部分を成長させます。なぜタイトルが『貝殻』なのかと考えたとき、同じ貝類の生物でありながら、その生き様の違いがうまく主題を表している、スパイスのような存在になっています。

なおこの『貝殻』は、約一年後の明治四十五年七月十三日に、単行本として春陽堂の現代文藝叢書第十三巻に収録されました。